

自己評価結果票

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1 ○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	思いのまま自由にふるまって欲しいという、「遊化三昧」を基に、「社会性」「人間性」「科学性」からなる理念を掲げている。また、上記を職員全員に分かりやすく理解させ、家族にもパンフレット等で説明し、十分に理解を得ている。	○	各フロアに「遊化三昧」の額を掲げスタッフが常時、施設理念を意識して動けるようにしている。また、理念について書かれた経営指針書を各職員に配布し、いつでも理念の再確認をできるようにしている。
2 ○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	全職員が経営者と同じ価値観で施設運営が出来るように人材育成研修を行い、コンプライアンスを高め、朝礼や会議においても、日々その徹底を図っている。また、家族、利用者には入居時に当施設理念を説明し、尚かつ、いつでも理解できるよう、玄関に明示している。	○	より徹底した理念の共有が全職員で行えるよう、各部署のリーダーに対しては、リーダー研修を設けている。
3 ○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	ホームの運営理念や役割が地域に理解されるよう、家族はもちろん、地域の老人会、幼稚園、小中学校や民生委員の方々、近隣の住民に対して、説明会や見学会、訪問でパンフレットや冊子を配布し、地域密着型であることを十分に説明を行い、理解をしていただいている。	○	地域の方々に対して、口腔ケアやグループホームについての講義や勉強会を設け、交流、相互理解を深めながら理念の浸透を図っていききたい。
2. 地域との支えあい			
4 ○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	朝喫茶の開催などで隣近所との交流機会を定期的に設けている。また、セラピー犬の散歩で近隣、公園などへ出向いたり、ホーム周辺の清掃活動など行うことにより、交流を深めている。	○	本年度より自治会の会員として登録させて頂き、自治会活動への参加、協力を積極的に行うことで、より深い地域との繋がりを築いていけるよう努力をしている。
5 ○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	朝喫茶の開催、ボランティアの受け入れ、民生委員の見学、学生の介護体験「トライやるウィーク」の受け入れ等行っている。また、老人会への訪問、交流をおこなうことで、地域のお年寄りとの交流を行っている。トライやるウィークのお陰で体育祭や音楽会に呼んでもらえる。保育所の交流も実施。	○	今現在、中学校や保育所など交流しているが、学生が気軽に寄ってもらえるようになればと思う。受動的な交流に加え積極的に地域の活動に参加する形での交流も図っている。具体的には老人会への訪問、地域小中学校でのイベント参加などを実施。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6 ○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	近隣の在介、居介の見学の受け入れを行い、地域事業所と情報交換などの連携を図っている。また、地域老人の食事会、介護家族の勉強会などでの講師要請が数多くあるため、口腔ケアや、介護の仕方についてなど様々な内容について講義させて頂いている。	○	今後も継続して地域の人に認知症の理解、勉強会など実施し、成果を上げていきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	第三者評価の意義については、運営者による人材育成教育により伝達されており、定例会議、フロア会議にて周知、改善できる体制をとっている。		
8 ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	概ね2ヶ月に1回、運営推進会議を行い、運営者、管理者、地域広報担当者、地域住民担当者、包括職員などが出席して様々な情報交換を行っている。また、左記会議での意見、提案は定例会議やフロア会議にて周知し、改善に向けて活かしている。	○	地域の人に認知症の理解、勉強会など実施していきたい。運営推進会議を通して、より深い地域との信頼関係を築いていきたい。
9 ○市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	神戸市役所、区役所等介護保険関係部局への連絡、報告事項がある時は直接足を運ぶことにしている。また、介護保険説明会、連絡会議に積極的に参加し情報収集、情報交換を行っている。		
10 ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	管理者は、成年後見制度について、必要な知識を学び、必要な利用者、家族には相談・話し合いの機会を持ち、制度活用のための支援を行っている。	○	全職員が成年後見制度への理解を深められるよう、会議などの場で、制度説明も随時行っていきたい。
11 ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員は家族会などの行事を通して利用者家族とできるだけ多くのコミュニケーションをとり、精神的負担を軽減出来るよう努めている。施設の構造としては、誰がどこで何をしているのが常に見渡せる造りになっており、見学や面会などオープンにしていることで施設内での虐待が起こらないようにしている。	○	虐待防止法に関する資料を職員に配布し、虐待防止に対する意識向上を図っていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得	契約においては個々に十分な時間を作り、ゆったりとした雰囲気の中、行っている。また、相談室という個室を利用することで、不安、疑問点を聞き出しやすい状況を提供している。		
	契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている			
13	○運営に関する利用者意見の反映	年齢層に幅をもたせた職員配置をするなど、どの利用者にも気の合う職員が対応できるよう、工夫している。また、立地条件がよい為、家族や親戚、知人等の面会も多く、外部者との係わりも盛んに持っている。その中から出てきた意見や要望は、必ず定例会議、フロア会議にて周知し、改善に活かしている。	○	職員と利用者がマンツーマンでゆっくりと関わる機会を今以上に増やし、不満や苦情についても遠慮なく言える体制・環境をより強化したい。
	利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている			
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者ごとに担当の職員がついており、利用者の状況・状態等、各家族との連絡を密に取っている。金銭管理においては、紛失やトラブルを避けるよう家族との連携を図っている。また職員の異動や入れ替わりについては広報誌で紹介している。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	1階受付にご意見箱を設け、日々皆様からの意見が聞けるような体制をとっている。重要事項に苦情相談窓口の記載をおこない、外部へも不満や苦情を表すことができるようにしている。上記を定例会議、フロア会議、にて周知し、改善に活かしている。	○	面会者が来られた時は日常の不満や苦情がないか、職員からもすすんで聞いていくよう徹底していく。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	随時のミーティングを通じて、情報交換を行い、職員の意見を運営に反映させている。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	入居直後の利用者、又は不穏状態にある利用者に対しては出来るだけ相性の良い職員、信頼関係の強い職員がマンツーマンで対応できるようシフト作成を工夫している。家族会などイベントがある時は施設全職員が出勤できる体制を取っている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>18</p> <p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員の配置は適材適所を原則とし、管理者、リーダー、スタッフ間のコミュニケーションを密に図っている。</p>	○	<p>各フロアの交流を図ることにより馴染みの利用者、スタッフが増え誰でも対応できるようにして、利用者もだれを見ても安心できるようにケアする。</p>
<p>5. 人材の育成と支援</p>			
<p>19</p> <p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>経営指針書の人材育成マニュアルに基づき、OJTがなされている。業務に係わる研修(改正研修や実地研修など)人材育成勉強会や口腔ケア実地研修は随時開催されている。</p>		
<p>20</p> <p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>地域運営推進会議の後に、包括の担当者と情報交換することでサービスに反映させている。他事業所との交流を通して互いの知識や技術の向上を図れるよう努めていきたい。</p>	○	<p>他事業所の見学機会を設けたり、他事業所からの見学を受け入れるなど、相互的な交流を通じて、職員の知識や技術の向上を図っていきたい。</p>
<p>21</p> <p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>管理者とリーダー、ユニットリーダーと現場職員とのコミュニケーションを強化し、常にコミュニケーションを図っている。</p>	○	<p>今後、定期的なスタッフ同士の親睦会を開催していきたい。</p>
<p>22</p> <p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>職員の人材育成を運営者自ら行うことで、各職員が働いていく上での目標、方向性をより明確に伝えられるよう努めている。また、日常においても運営者は頻りに施設(現場)に足を運び、職員の仕事に対する意識や仕事の成果を直接把握できるように努めている。</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23 ○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	担当職員は利用者に施設見学に来て頂いたり、自宅訪問することにより本人の入居に対する思い、戸惑い、不安などを解消している。施設として、どのようなケアをしていくかを具体的に説明することで、不安を軽減し、ニーズに応えていくことを示している。		
24 ○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	施設に来ていただいたり、職員が自宅に訪問する機会を設け、現状における問題点や利用にむけての不安、要望を聴く。施設にはその為の相談室も設け、いつでも個別的に面談を持てる体制を取っている。また、それに応じて施設としてどのようなケアをしていくべきかも十分に話し合うようにしている。		
25 ○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	施設入居を視野に入れながらも、その他のサービスや地域の社会資源を提示し、現状におけるより良い選択が可能となるよう最大限の情報提供、サービス提供に努めている。		
26 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前には見学や他の利用者との交流の場を必要に応じて提供している。また、個人の好みで、和室、洋室の選択が可能で、居室には馴染みのある使い慣れた物を多く持ち込んでいただいている。個人に合わせた居室空間を演出するために、家族、入居者、スタッフで話し合い工夫をしている。	○	現在、入居前の利用者には見学の機会及び、その際に他利用者と交流する機会を提供しているが、もっと長い時間、滞在して頂き、雰囲気を感じて頂ける体制がとれないか検討していきたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 ○利用者と共に過ごし支えあう関係 職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている	調理や園芸の指導をしていただいたり、一緒に買い物、犬の散歩や野菜の収穫などを行うなど、様々な事を利用者と一緒に行い、喜怒哀楽を共有し、家族の一員として生活を共にしている。	○	お花やお茶など利用者もつ専門的な知識や技術にもっと焦点を当て、それを指導的な立場に立って教育して頂けるような機会も作っていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	○利用者を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に利用者を支えていく関係を築いている	家族がいつでも面会にきて利用者与会えるオープンな施設づくりに努め、必要時にはいつでも職員と家族が利用者の現状や今後のケアについて話しができる体制をとっている。定期的に新聞で家族の方々と情報を共有し、常に喜怒哀楽を分かち合えるよう努めている。		
29	○利用者と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの利用者と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	年2回の家族会(4月花見、9月家族会)を設けて利用者、家族、職員の交流の機会とし、職員は日常生活の中だけでは成し得ない相互理解の機会となるよう最大限に創意工夫して関わっている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 利用者がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	家族の方に協力を頂き、利用者が外泊、外出をして馴染みの家や場所に帰ることができる機会を設ける。また、オープンな施設づくりをすることで利用者の馴染みの関係にある人々がいつでも面会に来ていただけるようにしている。	○	職員がドライブなどで利用者の馴染み深い場所に出掛けられるような機会も作っていきたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	調理の指導をしていただいたり、仲の良い人同士の散歩、また、食事摂取時の席の配置など工夫し、孤立しがちな入居者が交わる機会を作り、気持ちの支え合いができるような支援を日常的に行っている。	○	同じフロア内だけでなく、異なるフロアの利用者同士が関わり合える機会を設けていきたい。
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	契約終了後も相談、助言などの支援を継続して行っている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者本人や家族から希望や意向を聞くだけでなく、実際に生活した上での苦情や不満も積極的に聴き、それを改善することで、より希望や意向に添ったケアに繋がっている。また、本人の意志表示が困難な場合は家族やケアスタッフからの意見を十分に検討した上で利用者本位のケアに生かしている。	
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族からの情報収集のほか、必要に応じて自宅を見せて頂いたり、過去サービス提供に当たった事業者、担当者などから情報を得ている。	
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	ケア記録、個々の介護員の意見、医師の意見など様々な観点からの情報を基に、フロア会議で職員が個々の利用者のケアについて話し合い、状況把握に努めている。申し送りノートを活用することで日々の利用者の状況や変化を詳細に把握できるようにしている。	
2. より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画作成にあたっては、本人や家族の希望・意向を踏まえた上で、介護スタッフが集まって意見を出し合うケアプラン会議を開いている。それを基に、より多くの視点が集約された介護計画を作成している。	○ 介護計画作成にあたって、直接介護に関わっていない職員からの客観的な意見も参考にしていければと考えている。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3～6ヶ月に1回、又は、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、ケアプランを作成し直し、家族に十分に説明を行い、同意を得ている。それを、職員が周知するよう徹底している。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のケース記録を毎日記入し、特に重要な箇所についてはフロア会議で検討しケアプランに活かすよう徹底している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	希望や要望に応じて、又は趣味活動として、同施設内のデイサービスで行っているカラオケやパンフラワー教室、編み物教室などのレクリエーションに参加している。	○	グループホームからデイサービスだけでなく、デイサービスからグループホームに訪問する機会も数多く設けていきたい。
4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○地域資源との協働 利用者や家族等の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	利用者の趣味活動を支える為、ボランティアの方々に定期的に来ていただいている他、地域の保育所、小中学校、神社や自治会、老人会と相互的な交流を行っている。消防局には定期的な消防・避難訓練の実施に協力して頂き、安全意識向上に向けた指導もして頂いている。	○	現在、買物等で地域の商店へ出ていく機会が多いが、今後外食などで地域の飲食店なども利用機会を増やしていきたい。
41 ○他のサービスの活用支援 利用者や家族等の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	体調面での不安がある時などは当社併設のデイサービスや訪問看護の看護師が状態観察し、ケアや助言を行っている。		
42 ○地域包括支援センターとの協働 利用者や家族等の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターのケアマネジャーと連絡を取り合い、必要に応じて相談をさせて頂くこともある。		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
43	○かかりつけ医の受診支援 利用者や家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居に際して、当事業所協力病院の医師をかかりつけ医として受け入れて頂けるよう十分な説明を行い、その際には利用者や家族と医師が互いに信頼関係を築けるよう支援を行っている。かかりつけ医は定期往診をし、個々に応じた適切な医療が受けられるようケア、助言を行っている。		
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	医師、歯科医師などの医療機関の関係者は認知症を理解した対応・声かけに取り組んで頂いている。また、1回/週、協力病院医師に、利用者の状態が変化する毎に指示・助言を頂いている。また、必要時には地域の神経内科・認知症専門医に受診し治療を行っている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	当事業所デイサービス・訪問看護の看護師に相談・助言を頂いている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院の際には可能な限り病院に通い、利用者の顔を見る。同時に担当医や看護師、ソーシャルワーカーと情報を共有し連携をとりながら、早期退院に向け働きかけている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化が予想される前の出来るだけ早い段階において、家族参加のもと、全スタッフが集まり、今後のケア方針について会議を持つ。医師の意見や家族の思いを踏まえた上で、ケア方針を決定している。	○	ターミナルケアについての勉強会をもち、職員のレベルアップを図ることで、より幅広いケア方針を示せる体制を築いていきたい。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度、終末期を迎えた利用者に対し、施設で看取って欲しいという家族の思いを尊重し、ターミナルケアを行ったケースがある。それにあたっては、かかりつけ医の協力を得ながら介護スタッフとして何が出来るのかを全職員が明確に理解した上で、最大限に力を尽くし、家族に賛同、満足、納得して頂いた。	○	左記のケースでの経験を生かし、重度・終末期の利用者に対するターミナルケアについて、可能な限り受け入れていく努力をしていきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
49 ○住み替え時の協働によるダメージの防止 利用者が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	自宅からグループホームに移る際は、事前に本人の性格や生活習慣を情報として頂き、それに合った生活リズムが築けるよう努め、また部屋では自宅で使い慣れた家具や物品を使い続けて頂く。グループホームから別居所へ移る際は、当施設での生活リズムを詳細に説明し、愛着のある物品等はそのまま使用し続けて頂けるよう情報として提供している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50 ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者への言葉かけ、対応については経営指針書に理念として掲げ(四摂法の実践)、全職員に徹底させている。プライバシー保護については全職員が施設と誓約書を交わし、個人情報施設外に漏れることのないよう施設として徹底管理している。		
51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	集団の中では自分の意志や希望を表現できない利用者に対しては、信頼関係のある職員が本人の部屋など落ち着いた環境の中で、マンツーマンで思いを引き出している。時には家族からの協力も得て、利用者の自己決定に従った生活を送って頂けるよう努めている。	○	認知症の進行により自己決定が困難になった利用者に対し、利用者本位のケアが行えるよう、様々なケアの選択肢を用意していきたい。
52 ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホーム理念として遊化三昧を掲げ、利用者があるがままに生活を送るための支援ができるよう職員に徹底している。のんびりしたい方、外出したい方など個々の希望に沿った生活支援を行なっている。	○	認知症の進行や身体レベルの重度化により、自ら自分らしい生活を見つけ、過ごすことが困難になった利用者に対しても、自分らしさを提供できるよう職員のレベルアップを図っていきたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	入居者に生き生きと生活を送ってもらえるよう、本人の意見を取り入れながら、髪型を整えたり、化粧品でおしゃれを行っている。また、本人持参のもので季節感にあふれた洋服を着用し、本人の個性を尊重するよう支援している。理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>54 ○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>買い物、調理を入居者と共に行っており、味付けも利用者の好みに応じた物にしている。また、一緒に食べることでコミュニケーションを図ったり、献立で食べにくいものがあれば代替りの食事を提供するなどして満足してもらっている。食器に関しては、馴染みのある食器を持ってきて頂いている。</p>	○	<p>今後は献立の考案なども利用者と共にしていきたい。</p>
<p>55 ○利用者の嗜好の支援</p> <p>利用者が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>健康を害さない範囲で、最大限に嗜好品としての酒、煙草、おやつなどを楽しんで頂いている。個室に冷蔵庫の設置をしたり、職員が付き添い本人による買物で本人が選んだものを買っている。</p>		
<p>56 ○気持ちよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>	<p>介護員は個々の排泄パターンを把握し、入居者の自主性を重んじた、さりげない介助を心がけ羞恥心をけがさないよう努めている。また、おむつの使用にあたっては、業者の専門的な意見も取り入れながら、個々にあった物を使用し、日中・夜間・体調の好不調によっても使い分けている。</p>		
<p>57 ○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>毎日の入浴を基本とし入浴前に健康状態を確認し、本人納得の上、希望の時間帯に入浴してもらう。可能な限り、入りたい時に入る(日中希望、夜希望とに分かれている)。一日2回でも入浴される場合がある。同性介護を心がけ、浴室にはシンプルな鍵を取り付け安心感を持って頂くなど、プライバシーに配慮している。</p>		
<p>58 ○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>	<p>就寝時間や起床時間などを施設として強いることはなく、個人が自由に自分のペースで生活リズム(習慣)築き体調を管理していけるよう支援している。</p>	○	<p>今後、利用者に昼夜逆転が起こるようなケースが出てくれば、そのケースにおいては生活リズムを作っていく必要があると考えている。</p>
<p>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</p>			
<p>59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>園芸やセラピー犬、各種ボランティア、地域交流など個々の利用者に応じた役割、楽しみが見つけられるよう、多くの選択肢を用意している。また、掃除や料理、洗濯などの生活行為も個々に応じて役割として担って頂いている。</p>		


項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、利用者がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買物時、自分で支払えるよう配慮をしている。家族と連携し、紛失やトラブルを避けるよう理解を求めている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	希望に応じて、買い物、散歩をしたり、地域の行事に常に参加している。また、我が社で企画し、芋掘りや花見、花火大会、遠足なども行っている。	○	今年度、自治会会員となったことで、さらに多くの地域行事に参加していきたいと考えている。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	入居者や家族の要望に応じて外出の機会(花見、動物園、農園など)をつくり可能な限り外出支援を行っている。また、誕生日などは利用者個々に合わせて希望される場所に同行し、楽しんで頂いている。	○	個々の利用者の「ふるさと訪問」を現在検討中。
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に利用者自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	各フロアに電話を設置し、入居者が外部との交流を希望する際は、スタッフ支援のもと利用している。手紙のやり取りについても、希望に応じて自由に行えるよう支援している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、利用者の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	原則として日中玄関は施錠せず、いつでも誰でも気軽に訪問できるようにしており、訪問者が各利用者個室でゆっくり過ごして頂けるための椅子や座布団も用意している。利用者馴染みの人たちが職員にとっても馴染みの関係となるよう、職員は挨拶、快い対応を心掛けている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	現時点では身体拘束を行ったことはないが、やむを得ず身体拘束を行う場合は会議を行い、その結果、家族に説明し、その都度書面に残す方向で考えている。フロアには原則鍵をかけず、1階から屋上まで希望に応じて移動できる空間を作っている。	○	身体拘束をしないケアについて、職員が学ぶ機会を設け、資料の配布など行ってきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	原則フロアに鍵をかけず、1階から屋上まで希望に応じて移動できる空間を作っている。		
67 ○利用者の安全確認 利用者のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	居室は個室であり利用者が居室で過ごしているときは、入り口の戸を閉めてプライバシー保護に努めているが、戸には安全確認の為に小窓を職員だけが見ることの出来る造り(高さ)で設置しており、定期的にスタッフが見回っている。		
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	安全管理が困難な利用者については、工具や裁縫道具など、注意を要する物品は原則として職員管理としているが、趣味活動など個々の必要性に応じていつでも使ってもらい、使用時危険防止の為に見守りも行っている。		
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	フロア会議において、個々の利用者の状態から起こり得る事故について事前に意見を交わし、それに対応したケアへつなげていっている。(下肢筋力低下が見られる方には散歩での下肢筋力強化。嚥下機能低下の方には嚥下訓練や食事形態の変更など)ヒヤリ、事故による再発防止。		
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	かかりつけ医(都Dr)の講義などで職員の能力向上を図ると共に、救急インストラクターを取得した職員が存在。又、各フロアに緊急時対応マニュアルを置き、職員に徹底している。	○	今後、全職員が市民救命士講習に参加し、その資格を取得できるよう支援している。
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害対応マニュアルがあり、それを全職員が熟知している。また、年2回、定期的に消防・避難訓練を行っている。	○	地域の方々との連携も図れるよう、自治会などでのつながりを強化していきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72 ○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	遊化三昧の理念のもと、あるがままに過ごして頂くことを基本としているが、それによって生じ得るリスクがある場合には家族(又は、本人)に十分に説明し、健康状態や安全の確保について最大限できることを行っている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	職員全員が閲覧できるケア記録への正しい記入と確実な申し送りが出来ている。また、正常時の観察を行う事も徹底している。		
74 ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	スタッフ用棚における服薬BOXの管理。医師の指示のもと服薬支援を行っている。医ノートを用いて週一回の往診の記録を周知し、スタッフが速やかに状態を把握できるようにしている。服薬表をケース記録にて保管し、配薬表を作成している。		
75 ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘予防のため、散歩など運動の機会を設けたり、乳製品を積極的に摂取したりと利用者に応じて対応している。また、Dr訪問時、状況を報告し指示を仰いでいる。	○	運動や食事、水分摂取が便秘の予防になるといった知識を、全職員が持ってケアに当たれるよう、指導を行っていききたい。
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	歯科衛生士が全職員に口腔ケアの指導をし職員全員がレベルの高い口腔ケアを毎食後行うことで、満足な結果を得ている。また、口腔ケアファイルを作成しいつでも入居者の口腔内が把握できるようにしている。	○	当施設外の歯科衛生士にも1回/月ボランティアとして口腔ケアにきてもらい、専門的なケア・指導を充実させている。
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や食習慣は、一人一人異なる為、施設をして全員一律にするのではなく、個々に応じたものを提供している。その上で食事摂取量を毎日チェックし状態の変化の発見に努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している (インフルエンザ、疥癬、肺炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症マニュアルを全員が周知し、また、医師との連携によって、正しい対応ができるよう取り組んでいる。	○	医療関係者など、専門的な立場からの講義を受け、知識を高める機会を設けていきたい。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食中毒マニュアルを全員が周知し、それに沿って、台所周辺・調理器具の消毒・保管を行っている。また、食材については食材卸業者や小売店から新鮮なものを購入し、職員が安全管理して使用している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	仰々しい看板を控えマンション風に仕立てたさりげない看板で施設を認知して頂くように配慮している。入口には花壇と植木鉢で利用者の評価を得ている。又、玄関には生花を季節に応じて利用者と共に生けている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間 (玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等) は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同空間の照明は天候や時間帯によって使い分け、常に心地よい明るさの中で過ごして頂けるように工夫している。また、季節ごとに壁の飾り付けを変えたり、音楽を流すなどして心地よい空間作りを心がけている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	2階は洋風、3階は和風のリビングで趣向をこらし、2階は洋風ソファ、3階は和室障子でプライベートな環境作りをしている。また、個人に合わせた居室空間を演出するために、家族、入居者、スタッフで工夫している。1階デイサービスや屋上で気の合った利用者同士過したり、相談室で一人で落ち着いて過ごして頂くこともある。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>83</p> <p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室に置く家具や物品は、すべて自宅で使い慣れたものを持ってきて頂き、在宅での生活環境に近い空間を提供している。</p>		
<p>84</p> <p>○換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>	<p>原則として、全ての居室と共用スペースの換気は一日に数回(希望等に応じて)適切に行なう。体温調節が困難な方などの居室は職員が、その時々状況に応じて行い全員がどこにいても快適な温度、空気の中で生活できるように努めている。</p>		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
<p>85</p> <p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>手すりの設置や段差の解消などバリアフリー構造を取りながらも可能な利用者には階段でフロア移動をして頂いたり、椅子ではなく座布団を使用して頂くなど個々の身体機能を十分に活用し、かつ安全に生活できるよう工夫している。</p>		
<p>86</p> <p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>	<p>各居室に名前、写真を掲示したり、トイレの扉の色を変えるなどして居室や行くべき場所に混乱を生じさせない工夫をしている。また、食事の際は、自分の座る場所が一見して分かるように食器は馴染みのある物を持参頂いている。</p>		
<p>87</p> <p>○建物の外周りや空間の活用</p> <p>建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>	<p>4階屋上を多機能な利用ができるように家庭菜園、物干し場、園芸、水まき、散歩など「個」に合わせた活動空間としている。また、居室にもベランダがあり、物干しを設置したり、個人の花を置き育てたり個々の利用スペースとして活用している。</p>	○	<p>花火や月見など季節毎のイベントとしてベランダを有効活用し、地域交流の場としても活かしていきたい。</p>

( 部分は第三者評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所の番号の前に○印をつけてください)
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所の番号の前に○印をつけてください)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
98	職員は、活き活きと働けている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の2/3くらいが <input type="radio"/> ③職員の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> ③家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】
 (この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

当事業所は、「社会性」「人間性」「科学性」を経営理念としています。そして、運営者自らが社員の育成に当たる人材育成制度を設けることで、全職員がこの理念のもとに行動できるよう徹底しています。その結果、当事業所における私たち職員の志は、入居者に「心にまかせ思うまま自由にふるまって頂きたい」という思いに集約され、これを“遊化三昧”として実践しています。具体的な支援内容として、まず当事業所では「口腔ケア」をいち早く導入し、特に力を入れて行っております。常勤の歯科衛生士が入居者の口腔ケアを行いながら、介護職員に対しても口腔ケアについての専門的な指導を行っているため、入居者は常に行き届いた口腔ケアを受けることができます。また、当事業所ではセラピードッグや園芸療法、音楽療法、編み物教室、パンフラワー教室、絵手紙教室など、様々な生活・趣味活動の選択肢を積極的に取り入れ用意しているため、個々の入居者がより自分に合った役割や出番を得て生きがいを感じながら日々の生活を送ってられます。さらに、私たちは地域に根ざした施設として地域の皆さんと一緒に歩んでいくことを目標としているため、入居者の皆さんが地域の保育所や小・中学校、神社、自治会の催しに参加する機会を積極的に設け、地域の一員として生きがいや幸せを共有できるよう支援を行っております。